

## プロジェクト課題活動実績

課題名：嘉年ハイランドの経営強化と阿東地域の新規就農者の確保・育成

山口農林水産事務所農業部 チーム員：三原文典、河部操子、塩田幸恵、山根憲資、吉永美佳

### <活動事例の要旨>

(農)嘉年ハイランドは、山口市阿東地域にある集落営農法人24法人の中で最初に設立(H19年)され、かつ最大の農地規模を有する法人で、設立以降、組合員の個別精算方式による経営を行ってきたが、オペレーターや構成員の高齢化に伴う担い手不足により、農地の荒廃が危惧されている。

そこで、法人を取り巻く状況の実態把握(法人の内部資源点検活動)を通して、今後永続的な営農活動を展開するために必要な経営強化支援として、法人運営の中期経営計画の骨子及びその計画の実現に向けた行動計画の策定を支援した。

また、阿東地域には、夏秋トマト、梨、りんご等の地域特産品目があるが、いずれの品目も高齢化等による担い手減少に伴い、産地維持が厳しい状況であることから、産地の維持拡大に向け、新規就農者の確保・育成に向けた生産組織の取組みを支援した。

その結果、梨で園地継承候補者(新規就農予定者)2名を確保することができた。

### 1 普及活動の課題・目標

#### (1) (農)嘉年ハイランドの経営強化のための中期経営計画の策定

オペレーターや構成員の高齢化(80歳以上の組合員が51%)に伴う担い手不足の課題を克服するため、経営強化のための方策の検討し、それを踏まえた中期経営計画を策定するとともに、それを具現化するための支援を行う。

#### (2) 地域特産物品目での新規就業者の確保

阿東地域での地域特産品目(夏秋トマト、梨、りんご等)の産地において、高齢化等による担い手減少で産地維持が難しい状況となっていることから、これら産地の維持・拡大に向けた支援として、生産部会等と一体的に新規就農候補者を確保する。

### 2 普及活動の内容

#### (1) (農)嘉年ハイランドの経営体制の転換による経営強化と永続性確保

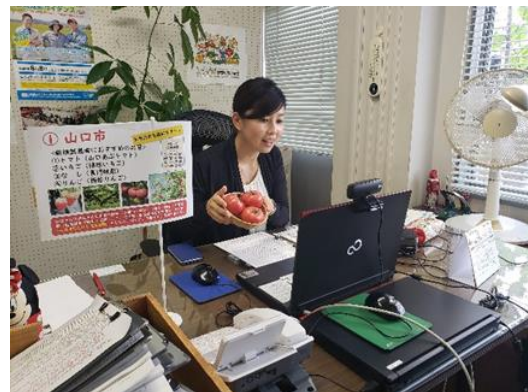
- 法人役員と当面5年後を目標とした中期経営計画の必要性を提案・協議し、策定することの合意を得た。
- 計画策定に当たっては、現状認識の理解を深め意識を高めるため、法人役員に対して、組織の内部資源点検の有効性及び実施方法等を提案した。
- 活動当初、法人内で検討チームを編成して案の作成を行う予定であったが、策定した計画を確実に実行するためには、代表理事だけでなく、役員全員(理事10名監事2名)が検討段階から参画し、共通認識や意識付けが必要であると感じ、役員会

で検討することとなり、話し合い活動を支援した。

- 内部資源点検では、水稻作を中心に、ひと（作業可能な組合員及びオペレーター）、機械（構成員の所有状況）、とち（品目別利用状況、自己保全管理状況）等について点検活動の実施を支援した。
  - 役員会で中期経営計画の骨子案が了承され、(農)嘉年ハイランドが主催する集落座談会において、農業部から資源点検の結果と中期経営計画に盛り込む項目等を整理し、構成員に対する説明、周知を支援した。
- (2) 夏秋トマト、梨、リンゴ等特産品目の新規就農者の確保
- 新規就農希望者の募集活動の一環として、産地独自の農大生産地見学会やオンライン相談会の開催を提案し、各生産部会や関係機関と役割分担することにより、相談会がスムーズに運営されるよう支援した。
  - 地元の地域振興組織であるNPOあとうとの情報交換を実施し、今後の新規就農者確保に向けた活動について協議した。
  - 梨での新規就農を希望する相談者に対し、お試し研修を受講してもらい、継承園地の説明や就農後の心構え等のアドバイス、また、栽培マニュアル動画を紹介するなど、受入産地と就農者希望者の視線に立った積極的な支援活動を実施した。



(農) 嘉年ハイランド座談会の様子



オンライン相談会でトマト産地をPR

### 3 普及活動の成果

- (1) (農)嘉年ハイランドの組織体制の再編による経営強化と持続性確保
- 法人の内部資源点検を実施したことで、嘉年地区の人材、営農状況が明らかになり、課題解決の方向性を中期経営計画の骨子として項目立てし、その項目ごとの行動計画を明確にできた。
  - 点検活動から計画作成まで役員全員と協議を行ってきたことで、当初は特定の役員のみの発言が目立っていたが、後半は全員から活発な発言が聞かれ、計画の役員間の共有と一体感が生まれた。
  - 計画検討の段階で、農事組合法人が管理する水田直営部分を個別精算方式と分離する組織体制改正案が生まれ、米の仕入れ販売等の事業の多角化が可能となるよう(農)嘉年ハイランドが出資する形で株式会社嘉年ハイランドが設立された。
  - 農事組合法人の通常総会において、中期経営計画の骨子(図1)とそれを踏まえた

行動計画を説明し、構成員に周知することができた。

(2) 夏秋トマト、梨、リンゴ等特産品目の新規就農者の確保

- 生産組織での新規就農者受入体制づくりを支援するとともに、オンライン等での就農相談会等の実施を支援することで、梨産地において園地継承候補者2名を確保し、うち1名は農大での担い手養成研修を開始し、もう1名は現地研修を開始することとなった。

#### 4 今後の普及活動に向けて

(1) (農)嘉年ハイランドの経営組織体制の転換による経営強化と永続性確保

- 嘉年地区の営農が将来にわたって持続するため、新たに設立された株式会社と農事組合法人が連携し、一体的かつ円滑な組織運営が可能となるよう引き続き支援が必要である。また、この2法人による地域の営農活動の永続性を実現するために策定した中期経営計画が具体的に実現できるよう、優先性や重要性を明確にしながら実践活動を支援する必要がある。

(2) 夏秋トマト、梨、リンゴ等特産品目の新規就農者の確保育成

- 引き続き生産組織や関係機関と連携しながら、新規就農者確保・受入に向けた取組を支援するとともに、早期にかつ確実に新規就農者を育成するための取組を進めていく必要がある。

図 中期経営計画の骨子

嘉年ハイランド中期経営計画に盛り込む内容

1 水稲生産体制の再編

- ・各集落単位から4ブロック体制に再編し、納期の共同利用を推進しブロックごとの共同作業で農機具の効率化と経費削減を図る仕組みづくり
- ・水稲作付品種の複数化（コシヒカリ中心→コシヒカリ、加工用米、酒米）
- ・水系に合わせた品種作付け（水管理の効率化）
- ・阿武川源流米の栽培ごよみの徹底と販売の強化

2 新規就業者の受入に向けた新たな経営部門の導入

- ・施設トマトの導入、山口あぶトマト阿東部会との連携（研修用ハウスの貸出、新規就農者用施設用地の確保など）
- ・やまぐち型放牧を活用した繁殖牛経営の導入
- ・自己保全管理田の解消
- ・その他品目（原木しいたけ等）の導入検討

3 農地の有効活用

- ・施設トマト団地の整備
- ・やまぐち型放牧の拡大

4 効率的な農業の実践

- ・スマート農機・ICTシステム（KSAS）の活用